

# 胴ベルト

本製品には、フルハーネス、ランヤードは付属しておりません。別途お買い求めください。その際には「2(サ)」を参照いただき正しい使用をお願いします。(一部の仕様でランヤードのセット品もございます。セット品をお買い上げの場合は併せて同封のランヤードの取扱説明書をご覧ください。)

この度は墜落制止用(フォールアレスト)器具 B種 胴ベルト型をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品は建設現場、土木工事現場、鉱山及び採石場、電柱、鉄塔などの電気通信線路の工事現場、製造現場、製造設備、建築物、構造物などで、2mを超える高所において、作業者の墜落による危険を防止する業務用の「墜落制止用器具」です。この胴ベルトをご使用になる前に必ず説明書をお読みいただき、十分にご理解の上で使用ください。

特に△危険 △警告 △注意の項目については、必ずお守りください。

尚、この取扱説明書は大切に保管し必要に応じてすぐ確認のできるように管理ください。(紛失された場合は当社までご請求ください)

## 必ずお読みください

取扱説明書をよく読み、使用方法がわからない場合は当社にお尋ねください。命を預ける大切な器具です。やさしく取り扱うよう心がけると共に、日々の始業前点検、使用後のメンテナンスを必ずお願いします。尚、一度大きな荷重の掛かった場合は部品の再利用も含めて使用をお止めください。

### 1. 用途



**警告**

- (ア) 本製品は、高所作業者の墜落制止以外の用途には絶対に使用しないでください。
- (イ) 本製品は墜落制止用(フォールアレスト用)です。ワークポジショニングや移動等に使用する製品をお求めの場合は、別途 関連付属器具をお買い求めください。
- (ウ) D環等を追加してワークポジショニング用に改造したものはフォールアレスト用としての規格に対して不適合品となります。
- (エ) 本製品は墜落制止用器具 B種 胴ベルト式です。墜落制止用器具に用いるランヤードは、B種 胴ベルト式の性能を有したものを using してください。

### 2. 使用方法



**危険**



**注意**

- (ア) 使用前には必ず「4.点検と廃棄の基準」の点検項目に従って使用前点検を行ってください。
- (イ) 「5.墜落制止用器具 各部名称」を参照し、安全上必要部品が揃っていることを確認してください。
- (ウ) 使用中に異常に気付いた場合は、直ちに使用を止め、再点検を行ってください。
- (エ) ご自身での修理・改造は絶対にお止めください。
- (オ) 屋外に放置しないでください。
- (カ) 正常な作動を保証できる温度範囲(-10℃~50℃)以外では使用しないでください。
- (キ) 正常に機能させるため、体への装着においては、緩みなく確実に装着していることを確認してください。
- (ク) 胴ベルトは腰骨の上に位置するように取り付けてください。
- (ケ) 以下の使用条件を考慮して使用してください。
  - ① 接続可能なランヤードの種類(型式)に関しては、主ロープ側は、墜落制止用器具の胴ベルト型専用若しくはフルハーネス型・胴ベルト型兼用のランヤードを使用してください。関連補助器具は使用しないでください。
  - ② 副ロープ側は、墜落制止用器具の胴ベルト型専用若しくはフルハーネス型・胴ベルト型兼用のランヤードか、関連付属器具の補助ロープを使用してください。
  - ③ 主ロープ側のランヤードは、ショックアブソーバの種類が「第一種」の表記ランヤード(最大の自由落下距離が1.8m以下である場合に使用できます)を使用してください。
  - ④ 本製品は100kgの試験体でのテスト合格品です。作業者の体重に装備品を加えた合計が100kgを超えていないことを確認してください。
  - ⑤ 最大自由落下距離については、ランヤードの取扱説明書をお読みください。
  - ⑥ 標準的な使用の下で使用した場合の落下距離については、ランヤードの取扱説明書をお読みください。
  - ⑦ 巻取り式のランヤードを接続される場合は性能の異なる巻取り器が存在しますので、ランヤードの取扱説明書をよく読み、使用場所を考慮してお選び下さい。
- (コ) 毎回使用前には「4.点検と廃棄の基準」に基づき点検を行ってください。
- (サ) 製品の性能は同一メーカー製での組合せ試験による数値に基づいて保証されています。他社製品との併用は出来ません。

- (ウ) 2丁掛けについて
  - ① 移動時を考慮し、フック掛け替え時の墜落を防止するため、2丁掛けを推奨します。
  - ② 胴ベルト型で2丁掛けを行う場合は主ロープとして作業に使用するものについては墜落制止用ランヤード(タイプ1)を使用してください。
  - ③ 胴ベルト型で2丁掛けの副ロープとして、墜落制止用ランヤード(タイプ1)以外に補助ロープの使用が認められています。ただし補助ロープは、主ロープに墜落制止用ランヤードが使用されていることが条件となり、主ロープ側ランヤードのフックを掛け替える時のみに使用するものとされています。正しい使用方法をお願いします。
  - ④ 補助ロープはショックアブソーバを含まないものも含め、移動時のみで作業時に使用しないことを条件に1300mm以下の長さのものをお選びください。
- (エ) 関連付属器具について
  - ① 1300mm以下の長さの補助ロープは関連付属器具に該当します。胴ベルト型において移動等における利用として、補助ロープとしての使用は認められていますが、あくまでも補助ロープは墜落制止用ではありませんので、主ロープとしての使用はお止めください。

### 4. 点検と廃棄の基準



**警告**

- (ア) 日々の始業前、終業後の点検を行い、一つでも該当するものがあれば、直ちに使用を中止してください。
- (イ) 定期点検は半年を超えない範囲で第三者立会いのもと実施してください。
- (ウ) 使用開始から一年を経過しているロープ/ストラップ部及び工具ホルダー等を装着しているベルト部については摩耗も確認を行ってください。
- (エ) 一般的にフルハーネス型の肩及び腿ベルト、胴ベルト型の胴ベルト使用可能期限は3年です。また、ランヤードのロープ部分の使用可能期限は2年です。紫外線等による劣化は目視できませんので使用可能期限を超えての使用はお止めください。

### 3. 選定の基準



**注意**

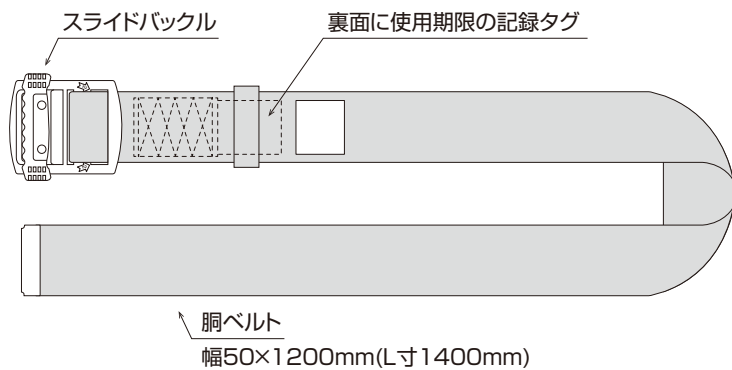
- (ア) 墜落制止用器具、フルハーネス型
  - ① ショックアブソーバの最大の自由落下距離(4m)とショックアブソーバの最大の伸び(1.75m)の合計値に1mを加えた高さ(6.75m)を超える箇所での作業には、フルハーネス型を使用してください。
  - ② この場合使用するランヤードはA種タイプ1またはタイプ2を使用してください。
- (イ) 墜落制止用器具、胴ベルト型
  - ① 建設作業における一般的な使用条件(ランヤードの取り付け高さ85cm、ランヤードをハーネスに取り付ける背面環の高さ145cm、ランヤード長1.7m、ショックアブソーバ(タイプ1)の最大伸び1.2m)にフルハーネスの伸び1mを加えた目安高さ5mに対して、これを下回る高さでの作業について胴ベルト型の使用が認められています。
  - ② フルハーネス型は、墜落制止の瞬時に発生する衝撃及びその後の保持時における体へのダメージを、胴ベルト型と比較すると大幅に軽減します。作業条件を確認して適切な器具をお選びください。

点検箇所・項目	点検方法と破棄基準	始業点検	終業点検	定期点検
ベルト部	ベルトの摩耗、傷、ねじれ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	薬品類による変色・硬化・溶解	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	塗料付着による硬化	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
縫製部	縫糸の摩耗、切断、ほつれ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
バックル	傷、亀裂、変形、紛失	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ベルトの噛合部が摩滅し、腹部に力を入れるとベルトが緩むもの	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	錆または腐食	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

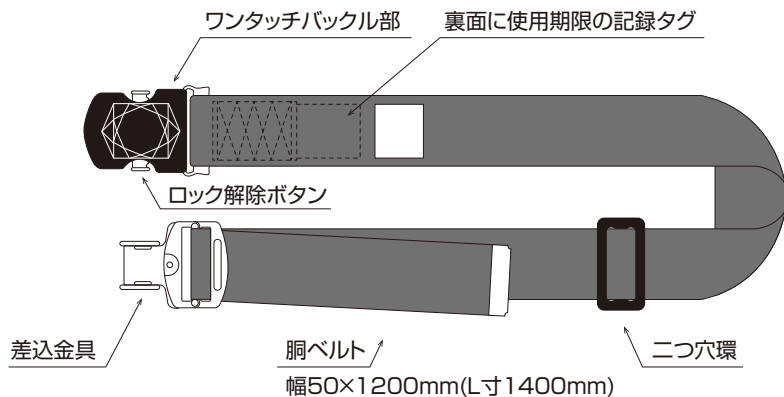
## 5. 墜落制止用器具 各部名称

※形状は一例です。

### スライドベルト



### ワンタッチベルト

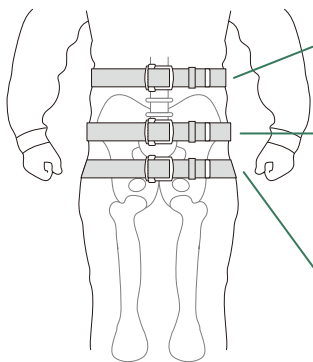


## 6. 装着方法



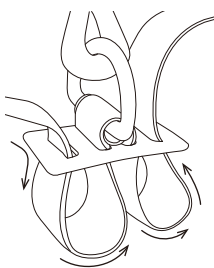
**注意**

### 正しい装着位置



- × 内臓圧迫の恐れあり
- 腰骨の位置に指3本が入る程度のゆとりを留め、しっかり締めてください
- × 足元より抜け落ちる危険あり

### D環止めに通す方法



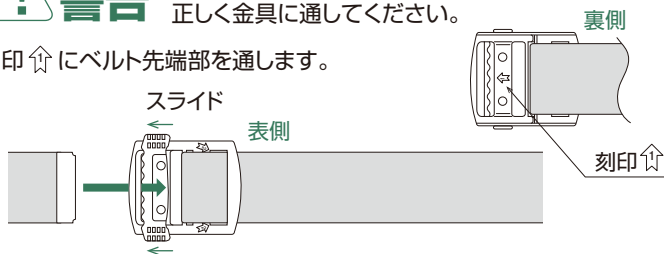
### スライドベルト



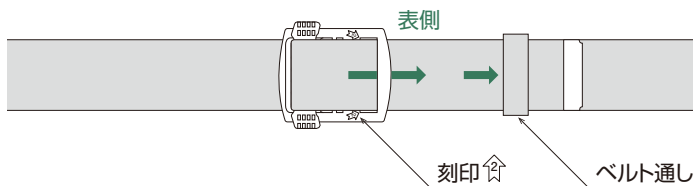
**警告**

ベルトが滑り抜ける恐れがあります。正しく金具に通してください。

①バックル裏側の刻印↑にベルト先端部を通します。



②続いて表側の刻印↑に先端部を通し、最後にベルト通しに入れてください。



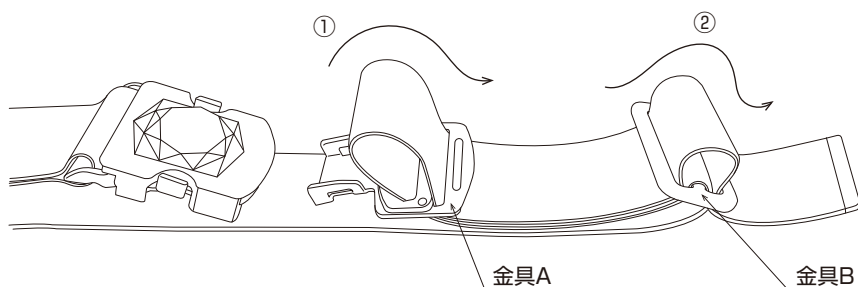
### ワンタッチベルト



**警告**

ベルトが滑り抜ける恐れがあります。正しく金具に通してください。

金具Aに矢印①通りベルト先端部を通す 金具Bに矢印②の通りを通して固定する



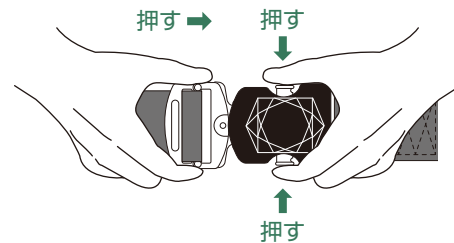
### 〈ワンタッチベルト 装着方法〉

バックル本体に差込金具を「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



### 〈ワンタッチベルト ロック解除方法〉

差込金具とロック解除ボタンを同時にしっかりと押してください。



## 7. 必ずお守りください



**危険**

(ア)、(イ)



**注意**

(ウ)~(オ)

- (ア) 分解や改造はお止めください。
- (イ) 製品に当初から付属のコネクタ(フック・カラビナ)環類を取り外したり、新たに自身で購入した部材を接続したりするといった改造行為は絶対に行わないでください。
- (ウ) 低温時に凍結等でレバー類の作動不良が発生する場合があります。異常がないか確認を行ってから使用してください。
- (エ) 一度でも大きな負荷の加わったものはその外観に変質が認められなくても十分な性能は発揮できません。使用を止めるとともに誤って再利用がされないよう処置をしてください。
- (オ) ワンタッチバックルは確実にロックされていることを確認の上で使用ください。

## 8. 保管・手入れの仕方



**注意**

- (ア) 墜落制止用器具の保守・手入れは、責任者を定める等により確実にを行うとともに管理台帳等にそれらの結果や管理上必要な事項を記録してください。
- (イ) 暗所で通気の良い湿気のない場所で保管してください。
- (ウ) ベルトの汚れは、ぬるま湯を使って洗い、落ちにくい場合は中性洗剤を使って洗った後、よくすすぎ、直射日光に当たらない室内の風通しの良いところで自然乾燥させてください。
- (エ) ベルトに塗料がついた場合は、布等でふきとってください。強度に影響を与えるような溶剤を使用する洗浄は行わないでください。
- (オ) 金具類が水などに濡れた場合は、乾いた布でよく拭き取った後、さび止めの油を薄く塗ってください。
- (カ) 金具類の可動部は定期的に注油してください。砂や泥などがついていない場合はよく掃除して取り除いてください。
- (キ) 保管場所
  - ① 直射日光の当たらないところ。
  - ② 風通しがよく、湿気のないところ。
  - ③ 火気、放熱体などが近くにないところ。
  - ④ 腐食性物質と同室でないところ。
  - ⑤ 粉塵の少ないところ。
  - ⑥ ねずみ等害獣の侵入がないところ。

## 9. 交換の目安



**注意**

- (ア) 一度でも落下等の大きな衝撃がかかったものは使用しないでください。
- (イ) 点検の結果、異常があったもの、摩耗・傷等の劣化が激しいものは使用しないでください。
- (ウ) 使用開始年月の記載を所定の場所に行い、部分品の取替が発生した場合は取替年月の記載も怠らないようにお願いします。
- (エ) 墜落制止用器具の各部の交換目安は以下の通りです。
  - ① ロープ/ストラップは紫外線照射による繊維強度の劣化から、2年を目安に交換をお勧めします。
  - ② それ以外の部分については3年を目安に交換をお勧めします。
- (オ) 交換時期はルールを定めて、第三者が確認し促進する仕組みをお願いします。

## 10. お客様相談窓口

この製品についてご不明な点がございましたらお買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。その際には製品に記載の製造番号をお控えになった上でお問い合わせください。

株式会社 基陽  
KIYO CO.,LTD.  
TEL/0794-82-2304  
FAX/0794-82-9462  
Mail/info@kh-kiyo.com  
〒673-0434 兵庫県三木市別所町小林477-10